

鉄コーティング直播による 飼料用米生産の省力化と収量安定

大津・南部農業農村振興事務所農産普及課

【普及活動のねらい・対象】

飼料用米は主食用米に比べて販売単価が著しく低いことから、生産の省力化・低コスト化を図りながら、安定した収量を得ることが求められます。また、土地利用型経営では、さらに余剰労力で経営規模を拡大することが合理的です。

そこで、大津市で飼料用米を栽培する若手の担い手農業者を対象に、近年、省力化技術として注目されている鉄コーティング直播で地域慣行と遜色のない収量を得られるよう技術支援を行いました。

【普及活動の成果】

（１）活動の経過

対象者は、平成 21 年度から当課の支援により、飼料用米栽培に鉄コーティング直播栽培を導入してきましたが、地域慣行の移植栽培に比べて低収でした。そこで、施肥方法で収量の改善を図る試験田を設けて、生育、収量、作業時間、収益性を調査し、改善策がデータで理解されるようにしました。

（２）活動の成果

2 種類の施肥体系（①鶏糞や硫安の利用、②直播用基肥一発型肥料の利用）を提案しました。試験田では、①②とも慣行の移植栽培と比べて、春作業を大幅に省力化しつつ、同等の収量を得ました。①の施肥体系は肥料コストが低いこと、②は肥料コストが高いものの、穂肥作業を省略できるメリットがあります。

対象者は地域の水田農業の担い手で、今後、さらに経営面積が増えることが想定されます。しかし、慢性的な労力不足であることから、飼料用米での鉄コーティング直播は経営発展に大きく資すると考えられます。



直播作業の様子